



## 【巻頭言】

## 若竹の新たな挑戦

—教えることは教わること—

園長 野田大燈

現在、若竹学園には 20 数名の男女園生が笑ったり泣いたり怒ったりしながら生活しています。

一般の学校なら大半が校区に居住していますが、学園は九州や中国・高知・徳島・愛媛など様々な地域から来ています。

一般校区の学校に通学している生徒からすると羨ましいかもしれませんね。

しかし学園は治療施設なので、生きる自信を取り戻せば元の学校に帰って行きますので、全員が中学を卒業するまで一緒に居られるとは限りません。

「一期一会」という言葉がありますが、学園でとても親しくしていたからと言ってももう二度と会えないかもしれません。

だからこそ学園での生活を悔いのないように大事にしなくてはなりません。

10 月より学園では夫々職員の先生が身につけている特技を園生の皆さんに教えることとなりました。

陶芸・武道・釣り・外遊び・フォークギター・編み物と多種多様なものです。

一期一会の出会いの中で、少しでも思い出と生きる自信をお土産として持って帰ってほしいのです。

3 か月がワンクールで、初級・中級・上級と担当の先生が資格証を発行します。

先生の特技を園生に教える過程で今まで以上に先生と園生の距離が縮まるのではないかと密かに期待しています。

私は陶芸が担当ですので、園生が卒園して若竹を去るまでに自分の名前の刻まれた湯呑とコーヒーカップを作ってほしいと思っています。

元来が器用でない私は園生に陶芸を教えるために半年間陶芸教室に通いました。

お陰様で下手なりにコップや抹茶茶碗を作ることが出来るようになりました。

他の職員も私と同じように密かに教えるための勉強をしていると思います。

朝礼の時に、10 月から始めますと説明したつもりですが、中には「陶芸と武道と釣りにチャレンジして資格を三枚もらおうぞ」と息巻いている園生がいるとか。

3 つの資格を得るには最低 9 か月間学園で過ごさねばなりません。

家庭に帰りたい気持ちは当然でしょうが「でも学園で生活するのも楽しい」と言ってくれるような学園でありたいと思います。

気が付けば 10 月。栗拾い・アケビ採り・キノコ採りと先輩から教わった秘密の場所での活動が園生を一回り成長させてくれます。

—了—

# 食育パン作り

9月15日に食育行事としてパン作りをしました。園生の自立支援を目的に、身近な食材であるホットケーキミックスを利用した簡単なパンを作る事にしました。パンはウインナーロールとチョコパンの2種類です。



最初は生地がなかなかまとまらずに悪戦苦闘しましたが、根気よく最後まで捏

ね、成形。思い思いの個性的なパンを完成させることが出来、「また作りたい！」と喜んでくれました。

今後も食べること、料理をすることが好きな園生が増えるような活動を考えていきたいと思えます。

# 陶芸部

9月20・21日は、園長指導のもと湯呑み茶碗作りを行いました。

お手本を見せてもらいながら、粘土玉を捏ねて、思い思いの形作りを楽しみました。園長から「なかなか、筋がいいじゃないか」と言われ、誇らしげな笑顔を見せてくれました。

自分の使う物を自分で作るという、貴重な体験ができ、園生の「完成が楽しみだ」と笑顔で話す姿がとても印象的でした。

若竹を卒業するまでに自分の名前前の刻まれた湯呑みを作って、学園での思い出を作って欲しいと思えます。



# レオマワールド”

9月24日は、社会見学事業に参加し、レオマワールドに行ってきました。当日は、台風の影響が心配されましたが、幸いにも天候に恵まれ、晴れ間の見える暑い一日になりました。

行きの車内では、配られたパンフレットを見ながら「あれに乗りたい！」と乗りたいアトラクションに印をつけて、とても楽しみにしている様子でした。

レオマワールドに到着すると、それぞれのグループに別れて散策しながらアトラクションがどこにあるのか探しました。



今回もジェットコースターが一番人気で、一度降りては、また並んで乗りに行くグループが多発しました。

どちらかと言えば、絶叫系のアトラクションが人気だったように思います。

普段外で遊ぶことが苦手な園生も開放感ある遊園地では職員や友達と時間を



忘れて楽しんでいました。思い出に残る素敵な一日になりました。ありがとうございました。

## 若竹学級たより

### 2学期が始まりました

44日間の夏休みが終わり、9月1日から全員元気に登校しています。子供達は夏休みの話をたくさんしてくれ、また、久しぶりに顔を見ると表情が凛々しくなっているようにも感じました。

小学生から中学3年生までしっかり宿題にも取り組む事ができていて、充実した夏休みが過ごせたようです。

### 自然を感じながら



2学期が始まり、暑さも和らぎ、過ごしやすい日が増えてきました。若竹学園の周りも少しずつ秋めいてきました。

先日、中学3年生がフィールドワークを行い、若竹学園から徒歩10分ほどの所にある「日見ずの滝」(写真 左)に行つて来ました。山道を歩き、滝を見た生徒たちの口からは、「なんだか良いね」「すごい」など、言葉にできない感動を覚えた様子でした。

また、違う日には、職員室の机にどんぐりに似た実が置かれていました。(写真 右)生徒に尋ねると、「それは棗(なつめ)の実だよ。食べれるよ」と教えてくれました。若竹学園の周りには本当にたくさんの自然に恵まれています。子供たちはその自然の中でたくさんのお話を学び、たくましく成長しているなと感じま

した。これから、秋、冬とそれぞれの季節を子供達と楽しんで行きたいと思います。

### 国語の授業



2学期が始まり、まもなく始まる中間テストに向けて各学級それぞれ学習に励んでいます。その中の、中学2年生と3年生の国語の授業を紹介したいと思います。

中学3年生は石垣りんさんの詩「挨拶」を学習しました。詩を書き写すことから始め、文法や情景を捉えると共に、当時の写真や映像を見ながら、平和についても考えました。いつも以上に真剣な表情をしている生徒もいて、よい学習になりました。

中学2年生は、短歌の学習をしました。学習の最後には自分の気持ちを五・七・五・七・七の31語に乗せて、歌を読むことができました。

これからも豊かな心が育つような学習を続けて行きたいと思います。

### 中学3年生の補習が始まりました

2学期から、中学3年生全員を対象に放課後の補習授業が始まりました。それぞれの進路に向けて、また、学力の定着を目指し、国語、数学、英語の3教科の学習に励んでいます。3年生が頑張っている姿を見て、「先生、私も補習がしたい」と願い出る他学年の生徒も出てきました。

中学3年生にとっては大切な時期になってきました。それぞれの将来に向けて、頑張ってもらいたいと思います。



# さかな釣り

最近の男子園生達は魚釣りに夢中で、あの場所なら釣れるかなと図書館で調べて勉強を始めたり、今日は大きい魚を釣るぞと意気込んでいます。



釣り場では、自分で針を結び付けたりエサを付けられるようになったり、小さな魚は海に返すなど、以前であれば出来なかったことが出来るようになっており、日々成長を感じる事ができます。



釣り上げた魚は、学園に持って帰って自分たちで捌いた後、食堂で調理してもらって、美味しくいただいています。



釣った時の喜びと共に自分で釣った魚を食事の際に食べる事の喜びの二つが味わえる魚釣りはすごいものだたと毎回感じています。

# 園生作品展

前回に引き続き、園生達のペーパークラフトの作品を紹介したいと思います。真剣な表情で一つの作品を仕上げる意欲的な姿は、職員も驚かされています。



作品作りは毎日、行われており次々と作品が増えていく風景に私自身、今度はどんな作品が出来ているのかなと楽しみに鑑賞しています。作品は、前回に比べてパワーアップしており動く作品や本物と間違えるほどの作品の数々をご覧ください！！

## 9が行事

- 15日 パン作り
- 24日 社会見学事業
- 25日 防災訓練



### 編集後記

夏休みも終わり、2学期が始まりました。季節も秋になり、芸術の秋やスポーツの秋など様々な秋を子ども達と一緒に楽しんでいきたいと思っています。

児童指導員 松下幸太郎

### 第248号発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192  
 TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160  
 ホームページ <http://netwave.or.jp/~wakatake/>  
 Eメール wakatake@mail.netwave.or.jp  
 編集兼発行者 若竹学園 編集委員  
 発行責任者 野田 大燈